

冬季遠征・石垣島

資料作成 原田

〈概要〉

昨年は、冬になると植保の活動はなくなると言われた。草木は枯れ果て、昆虫たちは土にかえり、動物たちは身をくらませてしまうからだ。しかし、それは四季のある本州での話だ。北緯 24 度・東経 124 度、本州の南端から南へ約 9 度下った緯線上に存在する島、石垣島に冬は無かった。そこは、最も寒い季節でも気温が 15℃を下回らず、11 月の最低気温であれば 20℃を下らないという熱帯雨林気候帯に属する島である。

そこに、南西諸島におけるクワガタ最大種、ヤエヤママルバネクワガタがいる。そして、その出現期は 10 月下旬から 11 月下旬。つまり、ヤエヤママルバネクワガタは、本州の寒気に押し込められた植保が活発な活動期を終えようとしている絶妙な時期に、あたかも、「まだ活動を続けろ」と挑戦してくるかのように出現するのである。

それだけではない。石垣島へ行けば、植保の拠点、神奈川県川崎市は愚か、本州のどんな山奥にもいない生物たちに出会うことができる。しかも、11 月といえば、植物保護研究部の晴れ舞台、生明祭が控えている。その生明祭の展示内容をより深いものにするためにも…。

ということで、植保の精鋭 + α が、各々、学生実験の予定がかぶってないかとか、旅費以上の価格のハンディ GPS 買おうぜとか、怖い教授の授業サボって良いのかとか、ハブにかまれて死ぬんじゃないかとか、飛行機の持ち物検査で捕まるんじゃないかとか、いろいろな心配を抱えながら、石垣島へ旅立ちました。

〈遠征期間〉

10 月 30 日から 11 月 4 日

〈遠征先〉

沖縄県 先島諸島 八重山列島 石垣島

〈遠征者〉

岡宮、北田、田崎、原田

〈ヤエヤママルバネクワガタについて〉

今回の最大の標的である、ヤエヤママルバネクワガタについての知見を記す。

ヤエヤママルバネクワガタとは、マルバネクワガタの石垣島・西表島亜種である。他には、奄美大島・徳之島のアマミマルバネクワガタ、沖縄本島のオキナワマルバネクワガタ、請島のウケジマルバネクワガタ、与那国島のヨナグニマルバネクワガタがいる。

体長は体長 35~66mm、雌は 33~45mm。幼虫はシイやカシなどの樹木の樹洞内にたまったフレークを食指、成虫は主に育った木の周辺で生活する。発生時期は 10 月中旬から 12 月上旬で、11 月中旬頃から林道を徘徊する個体が多くなる。野外ではあまりエサを取らないとされているが、飼育下で昆虫ゼリーを与えると意外とむさぼる。また、夜中には飛翔する個体を観察することもできた。

〈遠征あらまし〉

10月30日

夜、羽田空港到着。

早朝便に備えて空港で寝る（国際線ターミナル）。

採集記録なし。

10月31日

朝、石垣島到着。

レンタカーを借り、野底林道へ。チャイロマルバネクワガタ採集。

夜、屋良部林道。ヤエヤママルバネクワガタ採集を目的とするが、成果はゼロ。

深夜、ようやくホテルにチェックイン

11月1日

朝、野底林道。チャマル採集、順調。

夜、屋良部林道。

文字通りの暗中模索の末、ナナホシキンカメムシの大群に追われ、サキシマハブに遭遇し、もうダメかとあきらめかけた矢先、小雨降るイタジイの群生区にて、ヤエヤママルバネクワガタ初採集。

この日の最終的な成果はヤエマル7匹。その後、島内をめぐり、ヤシガニ等採集。

11月2日

朝、於茂登岳。

昼、二手に分かれる。野底林道、チャイロマルバネクワガタ採集と、伊良部の河口・海岸におけるカニ等海浜動物採集。

夜、屋良部林道。ヤエマル採取、順調。

その後、島内をめぐり灯火採集。ホオグロヤモリなどを採集。

11月3日

日中、二手に分かれる。野底林道、チャイロマルバネクワガタ採集と、伊良部の河口・海岸におけるカニ等海浜動物採集。

夜、二手に分かれる。屋良部林道ヤエマル採集と、島内を巡り、ヤシガニ探索。

ヤエマル採集は好調、ヤシガニ探索は成果ゼロ。

11月4日

朝、最後のチャマル採集、順調。

ホテルをチェックアウト後、レンタカーを返し、帰路へ。

〈採取生物目録〉

昆虫

甲虫目

クワガタムシ科 ヤエヤママルバネクワガタ、チャイロマルバネクワガタ、サキシマヒラタクワガタ、ヤエヤマネブトクワガタ

カミキリムシ科 イシガキゴマフカミキリ、イツホシシロカミキリ、ワモンサビカミキリ、カノコサビカミキリ (or ヨツスジシラホシサビカミキリ)、ウスアヤカミキリ (♀)、ヤエヤマフトカミキリ、他

コガネムシ科 コカブトムシ

ゾウムシ科 クロカタゾウムシ、コフキゾウムシ、オオクチブトゾウムシ?、クロナガカレキゾウムシ?

ヒゲナガゾウムシ科 ヒゲナガゾウムシの仲間

ゴミムシダマシ科 オオニシキキマワリモドキ

タマムシ科 アオムネスジタマムシ

ゲンゴロウ科 シマゲンゴロウの仲間 (オオイチモンジシマゲンゴロウ or ウスイロシマゲンゴロウ or コシマゲンゴロウ)

ホタル科 オオシママドボタル

カメムシ目

カメムシ科 ウシカメムシ

サシガメ科 キベリヒゲナガサシガメ、ムツトゲサシガメ

ホソヘリカメムシ科 キスジホソヘリカメムシ

キンカメムシ科 ナナホシキンカメムシ、ミヤコキンカメムシ、アカギカメムシ

セミ科 イワサキゼミ

ヨコバイ科 オサヨコバイ?、ヨコバイの仲間の幼虫、ウンカの仲間の幼虫、

ハゴロモ科 ヒメベッコウハゴロモ

アオバハゴロモ科 トビイロハゴロモ

コガラシウンカ科 不明 (翅がかなり広い)

ミミズク科 ヒラタミミズク、ヒラタミミズクの幼虫

マルウンカ科 ヤエヤママルウンカ

直翅目

バッタ科 ヒゲマダライナゴ、イナゴの仲間の幼虫、

ヒシバッタ科 ヒシバッタの仲間、ハネナガヒシバッタの仲間

キリギリス科 タイワンクツワムシ

コオロギ科 マダラコオロギ

ハチ目

スズメバチ科 ツマグロスズメバチ
コシブトハナバチ科 アオスジコシブトハナバチ
他 不明（背中に白い点があるものなど）

ナナフシ目

ヒゲホソナナフシ科 トゲナナフシ

ゴキブリ目

オオゴキブリ科 ヒメマルゴキブリ、ヤエヤマオオゴキブリ
マダラゴキブリ科 ヤエヤママダラゴキブリ

他、多数未同定

両生・爬虫類

無尾目

ヒキガエル科 オオヒキガエル、
アオガエル科 ヤエヤマアオガエル、アイフィンガーガエル、
リュウキュウカジカガエル
アカガエル科 オオハナサキガエル、ヤエヤマハラブチガエル、サキシマヌマガエル、
ヒメアマガエル科 ヒメアマガエル

有鱗目

トカゲ科 サキシマスベトカゲ、イシガキトカゲ
カナヘビ科 サキシマカナヘビ
アガマ科 サキシマキノボリトカゲ
ヤモリ科 ホオグロヤモリ
ナミヘビ科 サキシマバイカダ、サキシママダラ、ヤエヤマヒバァ
クサリヘビ科 サキシマハブ

カメ目

イシガメ科 セマルハコガメ

その他

ヤエヤマサソリ、タイワンサソリモドキ、オオナキオカヤドカリ、ヤシガニ、テッポウエビ、
ツノメガニの仲間、シオマネキの仲間、コメツキガニの仲間、フグの仲間、サヨリの仲間、
オカガニの仲間、ケマイマイ、アオミオカタニシ、他

〈おわりに〉

車中泊を繰り返した桧枝岐遠征に比べ、ホテルという宿泊先があった今回の遠征の方が快適、かと思いきや、そうではなかった。

朝、ホテルを出て、ホテルに戻ってくるのは連日、深夜や早朝だった。頭にタオルを巻いて、その上にヘッドライトをつけて、網やら懐中電灯やら荷物をたくさん持った薄汚れた男4人衆が、深夜の3時や4時に現われて、「〇〇〇号室のカギを」と言うのだから、と始めのうちは、きっとホテルマンの方も驚かれたに違いない。しかし、それが連日続くと、「〇〇〇号室ですね」と、こちらが言わずとも鍵を差し出してくれた。当の〇〇〇号室からは、ヘビやカニやその他もろもろの異臭が溢れ、ベッドのシーツは土まみれで、部屋のそこらじゅうに生乾きの衣類が干してあった。そんな部屋でもちゃんとベッドメイキングがされていた。こんな僕らを追い出さずに、5日間滞在させてくれた。まずは、そんなホテルの方に感謝し、深く頭を下げたい。

今回のメインは二種類のクワガタだった。1種類は昼間に現われるチャイロマルバネクワガタ。そして、もう一種が大本命、夜になると現れるヤエヤママルバネクワガタである。そんな風に、昼と夜のターゲットを設けてしまったものだから（桧枝岐のときもそうだった）、連日、不眠。短い睡眠を挟んで、また出発。疲れ果てて、精神に異常を来しかけ、それでも、採集のため、また道なき林間へ踏み込もうとする精鋭たちに、 $+\alpha$ は最後まで付いていけませんでした。一匹見つかると、次のターゲットに移行したくなってしまいました。ということで、3日目くらいから、カニ探しが始まっています。最終夜は、もはや林間に踏み込む気力もなく、島内を巡っていました。ここに、蟹班班長の謝罪を綴るとともに、この遠征を大成功に導いてくれた精鋭たちに感謝の意を表したい。ありがとう。また、いつか行こう。